

C-29 足先の形態の研究

金沢大教育 木越美和子

目的 大人の足の形態は幼児期の足の筆直な足の人と、加齢に従って変形する人
とがある。変形の大部分は、第一指の関節の骨が突出する。その足の足中は広くなり
足にあつた既製靴のサイズを求めて、この研究を行つた。

方法 北陸地方の男156人 女291人について、足先を自然の形に計測台上に
おき、上部より撮影して寫真判定により傾斜の度合いをしらべた。159°より少ない
ものを変形グループとし、普通の足との間で足中、足長、体重について考察した。

結果 男女ともに変形グループは普通のグループより17°多く傾斜し有意差があり
足中は男女とも3mm広く有意差があつた。女子の体重、足長は変形グループが多く
ともに有意差があつたが、男子には差はみとわれない。北陸地方で使用された既製
靴は男子13% 女子24%と普通のものより3mm足中を広く製作されたことが判
りし。甲の高さに関しては今後研究したい。